

名越篤史博士, 2016年度熱測定学会奨励賞を受賞

日本熱測定学会の2016年度奨励賞が、現在、国士館大学理工学部で講師を務められている名越篤史博士に贈られました。名越博士は2014年3月から2016年3月まで、当センターに特任研究員（常勤）として所属し、非平衡熱力学の研究に従事されていた方です。今回の受賞は、東京工業大学の学生として小國正晴先生の薰陶を受けて以来、ライフワークとして続けてきたナノ細孔中の液体の熱的挙動の研究が評価されたもので、センターで同僚であった私どもも大変喜んでいます。熱測定学会奨励賞は、熱測定に関する先導的、開拓的な優れた研究業績を挙げ、その研究のさらなる発展が期待される個人に授与されるものです。名越博士は細孔水に限らず液体一般の低温物性に関して優れた見識をもつ研究者で、これからもますます活躍してくれると確信しています。

名越博士は9月29日、第52回熱測定討論会（徳島）で「シリカナノ細孔に封じた液相の水およびベンゼンの低温における熱的挙動の調査」と題した受賞記念講演を行いました。過冷却液体が液一液転移や臨界現象など興味深い振る舞いをすることは理論的にも実験的な傍証からも予測されてきましたが、これまで結晶化のため直接観測は困難でした。名越博士は、過冷却液体の結晶化を回避する方法としての細孔の利用可能性を説得力のある議論で示し、水とベンゼンの細孔系に関する美しい結果を紹介しました。同日夕刻の熱測定学会総会の場で授与式があり、城所俊一熱測定学会会長から記念の盾を贈呈されました。

（中野元裕）

